

小樽港の課題

小樽港の現状や小樽港を取り巻く情勢の今後の動向から抽出される課題は、以下のとおりです。

【既存港湾施設の有効活用】

小樽港には、穀物や冷凍貨物の保管施設のほか、フェリー航路やコンテナ航路に対応した施設も有しており、これらの既存港湾施設の有効活用を図ることにより、物流の活性化を図っていく必要があります。

【対岸諸国との貿易拡大】

東アジア諸国やロシアの経済成長が見込まれる中、これら対岸諸国に近い小樽港の優位性を生かした貿易の拡大を進めていく必要があります。

【既存港湾施設の老朽化対策】

小樽港の整備は古くから進められてきているため、岸壁や荷さばき地、上屋などの港湾施設の老朽化が著しく、今後のニーズに即した対応が必要です。

【交通ネットワークの充実】

交通ネットワークは、港湾の背後圏の規模を左右する重要な要素であり、広域幹線道路網の充実や臨港地区内の円滑な交通の確保を図っていく必要があります。

【地域産業への貢献】

小樽の主要産業である製造業、水産業、観光産業などの振興、海洋に関する研究の進展、バイオ、IT関連、リサイクル産業などの育成のため、利便性の高い港湾空間の創造が必要です。

【国際交流や市民ニーズの多様化への対応】

国際交流の伸展や市民ニーズが多様化していく中において、港湾においても、歴史、文化、水辺の景観を生かした国際交流、市民交流、開放感とうるおいのある交流・生活空間としての利用が求められており、遊休施設の活用も含めて、魅力ある港湾空間の創造が必要です。

【安全・安心なまちづくり】

近年、恒常的な風水害や多発する大規模地震により、都市機能を守るニーズが一段と高まっており、市民の安全・安心な暮らしを守る都市機能支援施設の整備が必要です。

【良好な港湾空間の景観形成】

市民生活の質的向上や観光都市小樽として、まちづくりと一体となった良好な景観の形成や保全に取り組んでいく必要があります。

【環境の保全】

港内水質などの港湾空間の環境保全や、今後、深刻化してくると危がされる地球温暖化等の環境問題への取組も必要です。

【石狩湾新港との関係強化】

小樽港と石狩湾新港の特性を生かしつつ、相互に連携することにより関係を強化し、道央日本海側港湾として太平洋側港湾に対して競争力を高めていく必要があります。

【石狩湾新港地域の企業立地促進】

札幌市に近い地理的優位性を生かしつつ、新たな物流ルートの構築も視野に入れた企業立地を進めていく必要があります。